

健康面への影響

「学習者用デジタル教科書の有用性」に関する意識調査（ポストアンケート）と合わせて実施した、健康面への影響を調査するアンケートの結果、「目の疲れ」の質問項目と、「良い姿勢」「画面と目の距離」の質問項目との関係では、良い姿勢ができた、画面と目の距離を30cm以上離れた、と回答した生徒の方が、目が疲れていないと感じている傾向がみられた。これは「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」報告書（文部科学省 平成30年）で挙げられている、「**学習者用デジタル教科書を使用する際には、姿勢に関する指導を適切に行い、目と学習者用コンピュータの画面との距離を30cm程度以上離すよう指導すること**」が有効であることを示唆するものである。

学習者用デジタル教科書の使用を各教科等の授業時数の1/2未満とする基準について

現行法令上、紙の教科書を一切使用せずに学習者用デジタル教科書のみで授業を行う場合は、一般の児童生徒は「教育課程の一部」として、各教科等の授業時数の2分の1未満までとされていることについて、学校現場の要望等をヒアリング調査した。今回実証を行った学校現場の教員には、制限についてほとんど意識はされておらず、また、**制限する必要性は感じられていないことが分かった**。健康上の懸念についても今回実証を行った現場の教員にはほとんど感じられてなかった。1/2以上使いたいかという要望については、**制約がなく自由に使える方がよい、1/2未満の使用の義務化は必要性を感じない、必要に応じて多様な授業が可能になると考えるから1/2以上使えるようにしてほしい**、という意見があった。